

森

の さ さ や き

会員ジャーナル第18号



NPO法人
北海道に森を創る会

2024年1月発行

特集

『未来の森函館』 ～ 20年の歩み ～



記念樹を植樹



樹病被害木への対処

NPO法人北海道に森を創る会では、森づくりをとおして環境保全・地域振興への貢献を目指しています。

サクラ

2005年から取り組んでいる「未来の森函館」での森づくりは、本年で20年を迎えます。

特集

『未来の森函館』 ～20年の歩み～

「未来の森函館」では、2005年5月に(株)西武建設運輸様(函館市)から約5haの土地の無償貸与を受け、森林の再生に取り組んでいますが、2024年で20年を迎えます。そこで、これまでの取り組みを振り返るとともに未来に向けた森づくりへの想いを再確認するため[特集]を組んでみました。トラスト運動により関係団体との協働で「森林の再生や森林を活用した環境教育」など様々な活動に取り組んでいきます。

【巻頭言】



「未来の森函館」 20年に当たって

NPO法人北海道に森を創る会では、北海道150年を記念して「北海道植樹の日・育樹の日」の条例制定に向けて、北海道・北海道議会に陳情しました。その結果、「植えて育てて、豊かな森林を未来につなごう」のスローガンで「北海道植樹の日・育樹の日条例」は2018年12月に制定されました。特に、育樹の日制定は全国初で、植えたら可愛がって育てるのは北海道人の心情です。

北海道は、縄文の昔から森林の計り知れない恩恵を受け、アイヌの文化も森と木の文化といわれており、森の守り神シマフクロウをアイヌの人たちは「コタン・コロ・カムイ」、部落を守る神様と崇めております。

万葉集の中に「いにしへの人が植えけむ杉が枝に霞たなびく春は来ぬらし」という歌があります。日本では、万葉びとが「いにしえ」と呼ぶ古い時代から植樹が進められてきたことがわかります。日本人のものの考え方、例えば、他人への思いやりや、感謝の心は、縄文の昔から、森を慈しみ、育み、大切にすることを通じて培われたものであり、そこに日本人の心の原点があるのではないかと思います。今、その心の原点が忘れられているような気がします。

森づくり運動は、単なる木を植える行為であるばかりでなく、今、忘れかけている、日本人の心と呼び戻す運動ととらえ、未来を担う子供たちと一緒に森づくりをすすめております。

未来の森函館では、函館サンモリッツクラブの仲間、渡島総合振興局のみなさん、そして、国の華幼稚園の園児の「森のクマくまさん」の合唱が山に木魂する中で、心地よい汗をかいております。

令和という元号は、万葉集からの出典として話題になりましたが、令和は「口上書きで命の木」（北海道新聞読者の欄参照）令和の下の子である「和」を分解し右側にある「口」を令の左下に持っていくと「命」になり「和」ののぎへんを分解すると「ノ」と「木」となり「命の木」となります。古木には昔から神霊が宿るといわれ、木を通じて、人の命を大切にする元号です。

NPOでは、道民の意を一つにして「大地に愛を注ぐと緑色」をモットーに、これからも植樹運動、育樹運動を展開しようと思っております。



NPO法人「北海道に森を創る会」
理事長 石子 彭 培



国の華幼稚園の子供たち



「未来の森」函館支部の歩み

NPO法人「北海道に森を創る会」

理事・函館支部長 中川平八郎

北海道に森を創る会函館支部は、平成18年(2006年)9月に

設立され、森林トラスト運動の第1号として、植樹に着手してから20年を迎えることになりました。

これを節目としてこれまでの活動について報告します。

初期の取り組みとして、荒廃していた原野を緑豊かな森とするため、サクラを中心に植樹を計画し、日本桜の会から苗木の寄贈を受けて、平成18年5月20日に第1回目の春の記念植樹が実施されました。会員は札幌から大型バスで参加し、市内からは国の華幼稚園児をはじめ、森林ボランティア団体、渡島東部・渡島西部森づくりセンター（現森林室）、渡島支庁（現渡島総合振興局）林務課など、90名の参加のもとサクラの苗木200本の植樹をしました。この日は、記念植樹希望者にヒバ材で制作した盾を30名に贈呈し、国の華幼稚園児の合唱を聞きお祝いをしました。

記念植樹の開催に向けて準備段階から協力を頂いた関係者に感謝いたします。

この年を契機に、毎年春の植樹祭、秋の育樹祭を継続した主な内容について述べたいと思います。

○ 春の植樹について

樹種は桜（ヤマ桜。染井吉野）が主体でナナカマド、ヤマボウシ、コブシ、クリ他10種類で花が咲き実がなるもののほか、ヒバ、アカエゾマツ、トドマツ等を記念樹として植栽し標柱を設置しました。

○ 秋の育樹について

植栽木の管理、枝打ち、草刈り等の手入れ、野鼠・鹿食害の防除、冬囲いの作業ほか、木育として幼稚園児による記念樹の植栽、ナメコ植菌・収穫などを行いました。

○ 樹木の被害対応

野鼠・鹿による、サクラやナナカマドの食害が多数発見され、防除の方策を検討した結果、肥料袋を樹幹に巻くのが一番効果が認められたため、毎年継続してきたほか、殺鼠剤の散布を行いました。

平成28年8月には台風によるサクラの倒木被害が発生したため、成木30本の伐倒処理作業、また、令和2年(2020年)5月にはサクラの樹病診断でてんぐ巣病、こぶ病が多数確認されたため、これらの植栽木を対象に枝葉



獣食害対策として肥料袋の空袋を幹に巻き付け設置(2016年)

整理と一部について伐採処理を行いました。

これまでの20年を回想すると、満開に咲いた桜の美しさ、1年ごとに成長する木々の楽しみ、コブシやツツジの花が咲き、クリが実をつける喜び、支部会員の協力、特に国の華幼稚園への参加交渉と昼食に毎年豚汁を提供していただいた故斎藤サダさんに感謝を申し上げます。

今後も支部としては、渡島総合振興局東部森林室や、ボランティア団体の皆様のご支援とご協力のもと、協働で地域の環境を守り、四季折々に花が咲き、実がなり、紅葉を楽しめる森づくりを目指します。



「未来の森函館」 20年の歩みに想う

NPO法人「北海道に森を創る会」

理事 開本孝昭

私は道庁を卒業後、石子理事長から「NPO法人北海道に森を創る会」構想のお話を伺い、その思いに同感する多くの仲間達と共に創設に向けた準備を開始しました。まずは当時の目標に合わせた定款の素案作りに着手し、2005年11月にはNPO法人認可申請書を取りまとめ、翌年の2006年1月26日付けで「特定非営利法人北海道に森を創る会」の認可が下り、当法人が大きな事業として初めて手掛けたのが「未来の森函館」での森づくりでした。

今年で、「未来の森函館」での森づくりが20年を迎えたことは、これまで多大な貢献を頂いた方々の協力があってこそのもものと心より敬意を表します。

中でも、今では故人となった斎藤サダ氏（北栄測量設計kk会長、発足当時理事）の思い出をこの場を借りて書かせていただきたいと思います。

斎藤氏との出会いは、2006年4月21、22日の事務打ち合わせと、「未来の森函館」の現地検討会が、石子理事長はじめ7～8名で行われたときに、初めてお会いしたのですが、あの明るくはきはきた発言等で場を和ませてくれたものです。この時は、よく話題になります森の一部の道路に近いところから不法投棄された小さなゴミや古タイヤ、電化製品、農業用ビニールなどの粗大ゴミが捨てられており、これらの処分についても話し合われました。この処分は「未来の森函館」で5月20日（土）に行われた第一回植樹祭までに処理することになり、その後、市の担当者とも相談して進めましたが、結局、NPOが全額持ち出しで実施し、数十万円の経費となってしまいました。斎藤さんはほかにもアイデアを出してくださり、「きれいにすれば捨てる人も少なく」と提案してくれたものでした。

また、斎藤氏は森を創る会植樹祭においても、地元「国の華幼稚園」の子供たちを招き、第一回（2006年）から「コロナ」前まで参加を続けられ、これらを含めた功績で「令和3年度東北・北海道地区緑化推進協議会」の緑化功労賞を受賞しています。

斎藤氏は、すでに西方浄土へ旅立たれた方ですので深い感謝の意を込めて合掌したいと思います。

2006年5月20日には予定通り「未来の森函館」において実施された初の植樹祭には、札幌からバスを借り上げ、泊りがけで多くの会員を乗せて参加するなど、盛会に開催されたことを思い出します。

今後も「未来の森函館」が、さらに地域に愛される憩いの場として、整備が進められるよう祈念したいと思います。



「未来の森函館」の周辺環境(グーグルアース)



森づくりがスタートし取り組む参加者(2006年)



国の華幼稚園児も参加して春の植樹祭を実施(2007年)

『未来の森函館』 2005年～2024年までの歩み

西暦	月日	取 り 組 み の 概 要
2005年	5 月	函館市の株式会社西武建設運輸様より放置されていた約5haの土地の無償貸与を受けて、整備の方針・方法等について検討を開始
2006年	5月19日	当会員含む約140名参加で樹木医の斎藤晶氏のセミナーと懇親会の実施
	5月20日	上記参加者で150本の植樹、懇親会（ジンギスカンを囲んで）の実施
	10月29日	当会員ほか地元ボランティアを含む約40名で「未来の森」看板除幕式及び育樹指導後に苗木植樹、枝打ちの実施
2007年	5月20日	函館サンモリッツくらぶ（ボランティア）、国の華幼稚園、渡島東部及び渡島西部の両森づくりセンター、渡島支庁林務課など90名参加で約200本のサクラの植樹及び、応募者23組の記念植樹を実施し記念の盾を贈呈（函館新聞、北海道新聞に写真入りで掲載される）
	10月14日	当会員を含む函館サンモリッツくらぶ、渡島東部森づくりセンター、渡島支庁林務課など約40名の参加により枝打ち、間伐、下刈り、鼠害対策を実施
2008年	5月17日	当会員を含む141名参加で約60本の苗木を植栽、応募による7組の参加者による記念植樹会を実施
	10月19日	当会員を含む36名参加で植栽木の育樹と参加者2名の記念植樹の実施
2009年	5月17日	当会員、函館サンモリッツくらぶ、キッズサポートくにはな（幼稚園）、渡島東部森づくりセンター、渡島西部森づくりセンター、函館土木現業所、新山川草木を育てる集いの皆様ほかなど総勢103名参加で120本の苗木を植栽（「南山林種苗農園」提供）
	10月18日	当会員、サンモリッツくらぶ、東部森づくりセンター、渡島支庁林務課など32名参加で枝打ち、野鼠対策のほか鳩山総理大臣就任を祝い記念植樹を実施
2010年	5月16日	当会員を含む78名参加により野鼠防除囲い取り外し、キノコ植菌（ナメコ）や下刈りの実施
	10月24日	当会員を含む49名参加により野鼠防除用袋設置、捕植、枝打ちなどを実施
2011年	5月8日	当会員、国の華幼稚園児を含む143名参加により、前年秋に設置した野鼠食害防止袋の撤去、キノコ植菌（ナメコ）
2012年	5月13日	当会員、函館サンモリッツくらぶ、北海道さくらの会、渡島総合振興局など76名参加で枯損木の捕植、記念樹標柱補修、越冬後に発見した「野鼠被害」の実態把握と対応方針の検討
	10月29日	当会員を含む28名参加でエゾヤチ鼠による樹皮の食害状況確認調査を実施し全サクラ類205本のうち91本が枯死する見込みを確認し全林木に対する野鼠対策として殺鼠剤の散布と防護袋で幹の被覆を実施
2013年	4月30日	当会員、函館サンモリッツくらぶ、造林企業組合、森林室など59名参加によりサクラ50本の捕植、野鼠対策資材撤去及び記念樹標柱の補修を実施
	10月19日	当会員、渡島東部森林室、函館サンモリッツくらぶの35名参加により、冬囲い、殺鼠剤散布、殺鼠防除材設置、広葉樹枝打ちを行い、春に植栽した苗木50本がエゾシカによる食害を受けている事を確認

年度	季節	取 り 組 み の 概 要
2014年	5月18日	当会函館支部による駐車場整備のほか、当会員、東部森林室、渡島総合振興局林務課、函館サンモリッツくらぶなど60名参加により杉人工林除伐、野鼠被害木の捕植、防鼠資材撤去、看板設置など実施
	10月24日	同上参加者55名により野鼠防除資材設置、スギ人工林の除伐などを実施
2015年	5月23日	当会員を含む40名参加でハナミズキ植樹、野鼠被害木の捕植と記念植樹を実施（故：福岡研也理事・赤澤昭二氏）を偲んで記念植樹を実施
	10月23日	当会員含む33名で下刈り、冬囲い、野鼠対策、記念植樹用表示板を設置
2016年	5月15日	当会員、渡島東部森林室、函館サンモリッツくらぶなど40名参加により前年秋に設置した野鼠食害防止用袋の撤去と樹木等の被害状況調査を実施
	10月28日	同上参加者34名により台風被害を受けた苗木の整理、野鼠防除用袋や鹿防止用ネットの設置を実施
2017年	5月26日	当会員、国の華用幼稚園児、渡島総合振興局や函館サンモリッツくらぶなど地元の皆様45名参加により協働で植樹（クリ・キタコブシ）や前年秋に設置した野鼠食害防止袋の撤去、樹木標識の点検補修を実施
	10月21日	同上参加者27名参加で野鼠食害防止用袋や鹿対策ネット設置を実施
2018年	5月11日	当会員、国の華幼稚園児、渡島総合振興局や函館サンモリッツくらぶなど51名参加で、前年秋に設置した野鼠食害防止用袋の撤去と園児の手で「北海道150年記念」のナナカマドの植樹を実施
	10月20日	当会員、渡島総合振興局、函館サンモリッツくらぶや富原道議会議員など27名参加で野鼠食害防止用袋や鹿防止ネットの設置及び枝打ちを実施
2019年	5月9日	当会員、国の華幼稚園児、渡島総合振興局や函館サンモリッツくらぶなど52名参加で、前年秋に設置した野鼠食害防止用袋の撤去、園児全員によるナナカマドの苗木の植樹を実施
	10月25日	同上参加者37名参加で野鼠防除資材や鹿防止用ネット設置及び枝打ちを実施
2020年	10月2日	木戸口樹木医ほか理事4名で植栽済みの約150本の桜の樹病の診断を実施し、サクラてんぐ巢病15本、サクラこぶ病15本、胴枯れ病7本を確認し枝葉整理と伐倒処理を函館造林企業組合が実施
	10月29日	当会員、渡島総合振興局、函館サンモリッツくらぶなど19名参加で野鼠被害防止用袋設置、クリの木・ヤマボウシなどの冬囲い、鹿対策を兼ねたヒバの下枝伐りを実施
	11月20日	中川函館支部長により野鼠材散布対を実施
2021年	5月21日	当会函館支部が主体となり渡島総合振興局や函館サンモリッツくらぶなど15名参加で獣害防止材の撤去と故演出副理事長を偲びナナカマドを植樹
	10月15日	春と同様に函館支部や地元の皆様15名参加で獣害防止材設置、支柱下枝払いを実施
2022年	5月20日	当会員、渡島総合振興局や函館サンモリッツくらぶなど29名参加で協働により冬囲いと獣害防止材の撤去及び、故成田事務局長、故大谷實さんを偲んでナナカマドの植樹を実施
	10月14日	函館支部ほか25名参加で獣害防止材設置、支柱下枝払いを実施

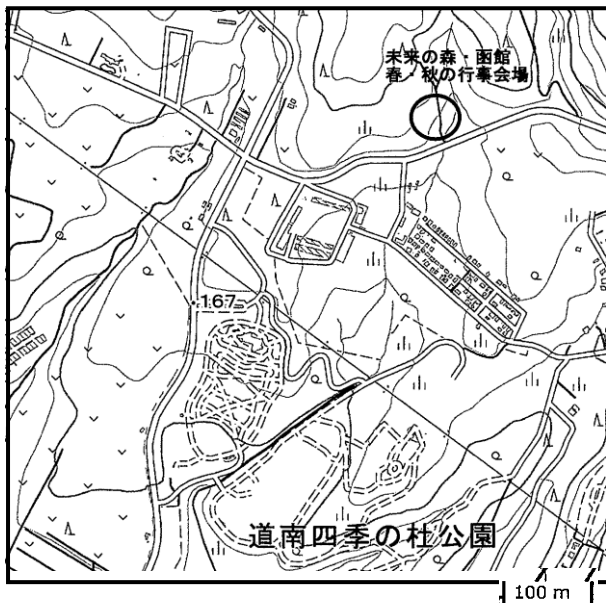
年度	季節	取 り 組 み の 概 要
2023年	5月12日	当会員、函館サンモリッツくらぶ、渡島総合振興局、渡島東部森林室など
		約31名参加で、野鼠被害防止施用袋の撤去、植樹したサクラの一部のて
	10月13日	んぐ巢病罹患枝の切除整理を実施、及び故斎藤サダ理事を偲んで記念植樹
		を実施
	10月13日	当会員、函館サンモリッツくらぶなど約31名参加で獣害防止用袋撤去、
		及び冬囲いの設置のほか樹病によるサクラ枯損木の伐倒整理、トドマツ・
		ヒバの枝打ちなどを実施するとともに伐倒した被害木を活用した記念プレートを試作する取組みを開始

これまで様々な取組みを行ってきました

『未来の森函館』の概要

土地の提供者：(株)西武建設運輸 様
 無償貸与：2005年5月
 所在場所：函館市亀田中野町271番地
 面積：5.07ヘクタール

「未来の森函館」では、不法投棄された小さなゴミや古タイヤ、電化製品、農業用ビニールなどの粗大ゴミが散乱する荒地に「NPO法人北海道に森を創る会」が森林トラスト運動として、森づくりの取組みを始めました。



(2006年)「未来の森函館」看板除幕式



(2015年) 子供たちも楽しく植樹



(2023年) 森が復元されました



獣食害対策として肥料袋の空袋を幹に巻き付け設置（2016年）



国の華幼稚園児がナナカマド苗木を植樹（2020年）



ヒバの人工林で枝打ち作業（2020年）



サクラのこぶ病・てんぐ巣病の対処(2020年)



「未来の森函館」において貢献頂いた斎藤サダ理事を偲んで記念植樹（2023年）





令和5年の活動報告

(1)通常総会・特別講演会（4月27日）

北海道林業会館3階大会議室において、令和5年度通常総会を開催し、令和4年度事業報告及び会計報告、令和5年度事業計画を承認。総会に引き続き、北海道水産林務部森林計画担当局長の加納剛様を講師に「北海道における森林吸収源対策」についての講演会を実施しました。



総会風景

(2)未来の森・函館

①春の植樹祭（5月12日）

会員を含む31名により、野鼠被害防止袋設置、及び冬囲い撤去、樹病のサクラ（てんぐ巣病）の一部防除作業、枝葉整理を実施したほ



斎藤サダ理事記念植樹



枯損した枝葉の整理

か斎藤サダ理事を偲んで記念植樹（キタコブシ1本）を行いました。

②秋の育樹祭（10月13日）

会員を含む31名により、野鼠被害防止袋及び冬囲いの設置、樹病による枯損木の防除作業やトドマツ・ヒバの枝打ち作業を実施しました。



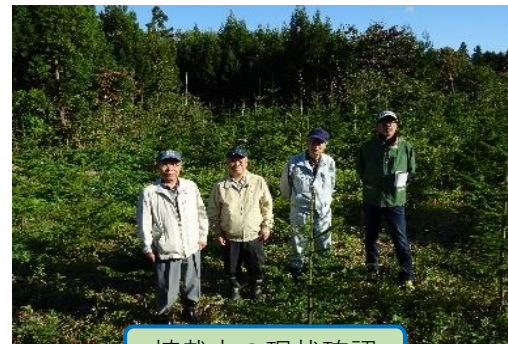
枯損木の伐倒



野鼠食害防止袋取り付け

(3)八雲・茨木記念の森現地確認（10月11日）

石子理事長ほか理事2名と事務局が同行し、これまで下草が植栽木を覆い隠して、成長が妨げられることを防ぐため、7月頃を目途に実施してきた保育（下刈り）を、植栽木の生育状況（樹高）を確認し、下草の繁茂により植樹木を被圧することもあるため次年度以降の保育は、実施しないことと判断しました。



植栽木の現状確認

令和6年の主な活動予定

現時点での主な行事予定

(1)令和6年度通常総会

4月22日（月）に札幌市内で開催予定

(2)未来の森函館20年記念行事

①春の行事（5月中旬）

◇活動20年のイベント開催

②秋の行事（10月中旬）

その他詳細については別途お知らせします。

「未来の森函館」春の行事を、活動20年記念イベントとして開催することに合わせて、植栽木のうち樹病と診断されたサクラを伝染防止対策としてやむなく伐採処理を行い、その処理木を活用して形あるものとして残すため、記念のプレートの製作を行っています。



【試作品】



中川平八郎理事が「北海道社会貢献賞」を受賞

本会の中川平八郎理事は、山づくりに熱心だった父親と共に、幼少時代より山林やスギの苗畑での作業に従事され、昭和40年に、自身の山林を取得して以来、積極的に山づくりにはげまれました。

平成18年からNPO法人「北海道に森を創る会」函館支部長を努めて、放置林やリゾート開発跡地などの森の再生、活用及び環境保全に貢献する「森林トラスト運動」に取り組み、「未来の森函館」においても、地域の森を育て緑に親しむ活動に尽力するとともに、市民植樹祭などに参加して植樹指導を行うなど、緑化活動の推進と地域の林業の発展のために大きく貢献されています。



中川理事受賞

これらの永年にわたる緑化活動の功績に対して、12月19日にホテル札幌ガーデンパレスで「令和5年度北海道社会貢献賞（森を守り親しむ功労者）」を受賞されました。

「第73回北海道植樹祭」に参加

北海道胆振東部地震から5年の節目を迎える被災地（厚真町幌内）において、復興が進むようお願いを込めて開催された「第73回北海道植樹祭」に石子理事長ほか5名の会員で参加し、森林の再生に向けてアカエゾマツなど1,000本の苗木が植樹されました。



鈴木知事のあいさつ



石子理事長ほか5名で植樹参加





お知らせ



- ① 若松幸雄理事に於かれましては、令和5年9月12日にご逝去されました。永年にわたって大変お世話になり、深く感謝を申し上げ衷心よりご冥福をお祈りします。



故 若松幸雄 氏

- ② 事務局体制を次のとおりとしました。
◇ 担当者を高橋欣也・佐藤浩吉の2名体制
◇ 原則週2日（火・木 10:00～16:00在勤）
◇ 事務局用専用の携帯電話を開設しました。

TEL 090-4255-6308（専用携帯）



NPO 法人
北海道に森を創る会



編集後記



本年は年初めから「令和6年能登半島地震」が発生し被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。

犠牲になられた方々に謹んで哀悼の意を表するとともに被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

森林はあらゆる自然災害を防止、或いは軽減し地域住民の生活を守り国土を保全する重要な役割も有しています。

当法人が取り組む「森林トラスト運動」による森づくりは、地球温暖化防止などの環境保全と併せて、山地災害の防止にも寄与する重要な取り組みです。

今回の「森のささやき第18号」は、当会が発足して、初めて取り組んだ大きな事業でもある「未来の森函館」が整備に着手して20年を迎えた節目として、取り組みの経過を特集として編集しました。

携わった方々に敬意を表します。



編集：北海道に森を創る会事務局
札幌市中央区北4条西5丁目1番地
（林業会館3階301号）

TEL 090-4255-6308（専用携帯）

Email 2005morisou@gmail.com

HP / <http://www.moritukuri.org/>

編集担当：佐藤浩吉